

緑が丘

校訓
「ゆたかさ・たしかさ・たくましさ」
学校教育目標
「認め合い、学び合い、高め合う生徒の育成」

平戸市立田平中学校
学校だより第 4号
(令和5年5月)
文責 西澤 庄藏



合同体育大会を開催しました。多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。

4/30(日)快晴のもと、午前のみでしたが、体育大会を開催しました。今年度も佐世保特別支援学校北松分校小学部・中学部(以下、「北分」と)合同で実施しました。

「感動した」この言葉に尽きます。先生たちの熱い思い、保護者の方々の温かいまなざしに見守られ、生徒一人一人の頑張りが見られたからです。それぞれが得意不得意はあるものの、最後まであきらめずに、走ったり、演舞したりの連続でした。中でも、全員が出場する100m走での一生懸命な態度は誰をも魅了するものでした。「たかが100m、されど100m」です。ゴールシーンで差がついた場面であっても、ゴールする瞬間まで力を抜かなかった選手に、健闘を称える大きな拍手が送られていました。必死になって駆け抜ける選手が大変格好良く映ったひとときでした。

校舎の一角にスローガン「百花繚乱 ～咲き乱れる個性～」を記したパネルを掲示して大会を印象づけました。ここにも、美術部員をはじめ、生徒の活躍を見た思いです。

競技の最初と最後に行う挨拶も印象に残りました。そのきびきびとした立ち居振る舞いが理屈抜きに素晴らしく、生徒一人一人の表情が自信に満ちあふれ、本校生徒である誇りたるものも感じ、大変頼もしく映りました。不快感0(ゼロ)で(競技者はもちろん)参観者も自然と笑顔に満ちあふれるものでした。関係して、開・閉会式での実行委員長、生徒会長、それぞれの原稿なしで堂々とした挨拶も、今大会での着実な成長を感じた1コマでした。「やり切る力」完遂を自信にして次なるステージにつなげてほしいと思います。

この体育大会は「みんな」で一つのことを作り上げるかけがえのない学校行事でした。たった半日で終わるイベントであっても、その計画や準備に莫大な時間を費やすことを、生徒一人一人が実感したと思います。私も含めて「みんな」が、これまでの苦勞が達成感に変わったひとときでした。



100m走



学年ごとに趣向を凝らした種目もありました。



(玉入れ)

どこか懐かしさを覚えるものでした。

「北分」児童生徒の活躍もありました。特に、ソーラン節では、「北分」児童生徒のはつらつとした演舞が圧巻でした。ふと、応援席に目を転じると、田平中学校生徒も自然と踊ることで演舞に華を添えていて、合同開催を強く印象づけました。

競技後も(明暗を分けた勝敗に)応援席で涙する「北分」児童の姿があるなど、全力プレーに対して田平中学校生徒も学ぶことが多く、この1コマからも、合同開催の意義を感じました。



(「北分」競技から)



楽しいことを体いっぱい表現していました。



【保護者の皆様へ】 PTA 活動に際して (お礼)

駐車場係に携わっていただいた PTA ご担当の皆様、ほかにも、テント撤収等、数多くの場面でご支援いただいた保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

想定以上のご来場に、学校行事への関心の高さに通じ、感慨深い気持ちです。その分、駐車スペースに限りがあり、課題となりました。今後、学校としても、PTA と連携し、対策を思案したいと思います。